

ファイナル風 (現場)からの風

宮田守男

長野県は12日に、入院患者数300人以上が続き新型コロナウイルスの拡大が見込まれるとして医療警戒を出したが、昨年に規制が緩和され、マスク着用

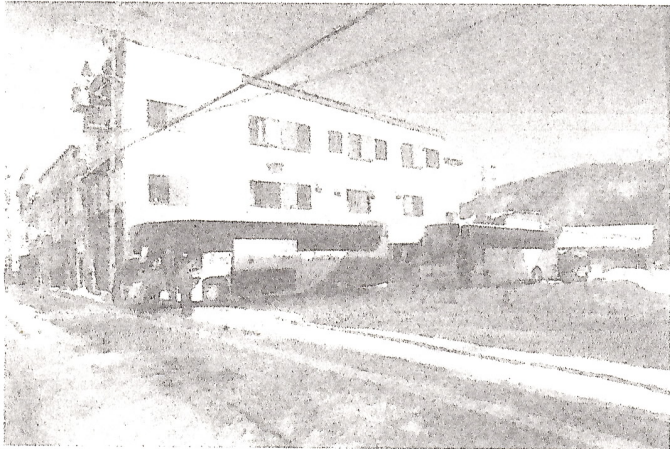
などの個々の感染対策が気薄に感じる。昨年の1月には大町保健所管内で日最大100名を超えたコロナ感染状況を思い出してほしい。週末の本格的な降雪で明るい兆しが期待されている大切な時期だ。武者小路実篤の言葉「もう一步。いかなる時も自分は思う。もう一步。今が一番大切なときだ。もう一步」を思い返し、経験済みの感染対策の実行を強く望みたい。

2024年1月1日時点の人口推計を総務省が公表。05年生まれの新成人(18歳)は23年から6万人減の106万人で過去最低だ。長野県が発表した毎月人口異動調査に基づくと12月時点の総人口は200万人を僅かに上回っているが、今月は200万人を割り込む可能性が高いとして

人口減社会を迎える地域のために今行動することが求められている

阿部知事は「現状の認識や危機感を県民と共有しながら取り組みたい」と訴えた。経済界有志や有識者らでつくる「人口戦略会議」は、国立社会保障・人口問題研究会の2100年に総人口が約6300万人との推計を、8000万人を目標し人口が減っても成長力を維持する社会をつくる戦略が必要だと国に提言した。人口減少により予想される社会は、多様な情報で多くの人たちが事前に

福を植える」と説いている。自分自身の福を収穫すると同時に、社会にも同じ収穫させる一心一念の善良な働き掛けが大切だと。一人一人が明るい未来を造り出せるのだと考えることが求められている。私達の地域も先人たちが自然を大切に営んだ結果、世界に誇れる素晴らしい自然環境を持続させていることを忘れてはいけない。桜の開花時期に大勢の皆さんが訪れる白馬村野平の一本桜も、村が集落に配布した桜の苗木を、地域が育て続け貴重な観光資源を



バスターミナル機能が白馬駅周辺に、大勢の外国からのお客様で賑わう

造り出している。何もできないと考えず、将来を夢見ながらできることから始めよう。その一歩がこれからの地域を担う子供達への最高のプレゼントになるに違いない。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)